

10月はポルトガルのお祭り、日本語サークルの歓迎会や国際音楽祭、寮対抗のチアの大会や中国におでかけしたりなど毎週イベントが盛りだくさんでした。マカオ政府の観光のページ (<http://en.macaotourism.gov.mo/index.php>) や、マカオ新聞 (<https://www.macaushimbun.com/>) というマカオのニュースを掲載しているサイトでイベントなどが掲示されていてマカオに興味ある人や観光で来る際には要チェックです。今月はマカオと香港を結ぶ橋が開通し、香港にバスで行けるようになったのでより香港にアクセスしやすくなったのがマ

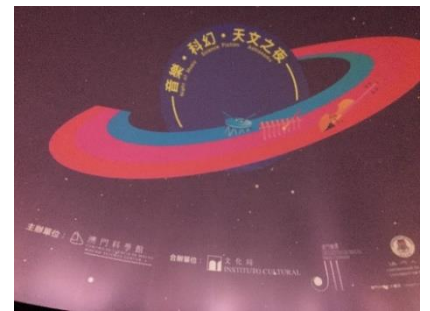


カオとしては大きいニュースだったと思います。中間テストがありました。マカオ大学で受けるテストも前のセメスターから合わせて3回目ということもあり、ある程度慣れてテストに備え勉強できたと思います。今期は広東語を勉強しているので勉強したフレーズなどを実生活で使えたり、聞こえてくるフレーズの意味がわかったりするのを楽しんでいます。



【32nd Macau International Music Festival】

9月28日から10月28日までの1か月間、世界各国からアーティストが訪れ、マカオでオペラやミュージカル、ジャズなどの様々な音楽ジャンルの公演が行われるマカオ国際音楽祭というイベントがありました。このイベントは毎年開催され、公演は劇場や教会など世界遺産として登録されている場所も使用されます。以前訪れたことのあるマカオの世界遺産の一つであるドン・ペドロ5世劇場で開催されるオペラも見に行きたかったのですが、結局マカオオーケストラと上海交響楽団のコラボの演奏だけ行きました。学生割引があったりするので、学生や子供たちも多く見に来ており、最高の演奏を間近で聴くことができとてもよかったです。また、別の日には寮のイベントでマカオ科学館で開催される、プラネタリウムと音楽のセッションのプログラムに参加しました。このようなイベントも寮のアクティビティとして誰でも無料で参加でき、寮ごとに様々なものがあるので新しい友達を授業や寮のフロア以外で作る機会として、とてもいいなあと思います。



【21st Lusofonia Festival】

10月19日～21日の3日間、ポルトガル語圏の国や地域が集まり。バンドやダンスなどのパフォーマンスや伝統的な食べ物などが楽しめるイベントがタイパハウスミュージアム周辺で開催されました。参加国はマカオ、ポルトガル、ブラジル、カーボベルデなどをはじめ、初めて知る国も多



く、ポルトガル語を話す国が意外とたくさんあることに驚きました。イベントの行われたタイパハウスミュージアムはタピオカを飲みに行ったり、ごはんを食べに行ったり、スーパーへ買い物にいったりするタイパというエリアにあり、昼、夜どちらも何回も行ったことあるのですが、その場所が現地人をはじめ、マカオで働いている外国人の方や

観光客など様々な国籍の人であふれていて、とても賑やかで驚きました。マカオはかつてポルトガルの植民地であり1999年に返還された土地なのでポルトガル人やポルトガル人と現地人とのハーフも多く暮らしており、ポルトガル系のイベントも多くあり、中国の特別行政地とはいえアジアとヨーロッパの雰囲気が混在していてとても面白い土地だなあとよく感じます。私も初めて知ったのですが、Lusofonia というのは、ポルトガル語を公用語とする地域をさした言葉だそうです。福井にいるときはこのような国際的なイベントは大学内のもの以外には身近に参加できるものである程度しかなく、アルバイトや課題で日々忙しく、あまり参加できなかったのですが、マカオでは毎月このような国際的なイベントがよく行われ、アルバイトもなく履修している授業も比較的少なく、自由な時間が多いためこのようなイベントに多く参加できるのは留学する醍醐味だなと感じます。またこのようなイベントに参加するたびに新しい発見、新しい出会いなども多く、世界中にどんどん知り合いができていくのは楽しいなあと感じます。



今月は新学期が始まり、新しい出会いや新しい授業などまだ新しさのあった8月末から9月を経て、2学期目なのでマカオにも大学にも慣れ、ある程度落ち着いて過ごせ、「慣れ」という感情を非常に強く感じた1か月だったなあと感じます。そのためか留学後のことやあと2か月弱しかない留学の目的、4年生を目前に就活をはじめ、将来のことなどで考えることや悩むことも多くあったなあと感じます。留学生活も残り少なくなった今、留学前や前のセメスターの自分とは明らかに考え方や自分自身変わったなと感じるし、他の大学からマカオ大学に来ている日本人留学生との交流もそうですが、世界中の様々な年代の人と多く出会い関わったことで考え方も柔軟になり、一つ一つの出来事に対して日本にいるときはその出来事を経験するだけであまり考えずに過ぎていくことばかりでしたが、今は限られた時間、異国にいるという環境により、考えることが多くなったと感じます。しかしいつも思うのは、考えの先にはいつも私は日本人であり、日本に生まれて日本で育ってよかったなと感じ、アイデンティティは確実に日本人であるなあと感じます。もちろん外にいることで、日本の嫌なところも見えますが、マカオに留学に来て出会った人たちはみんな口をそろえて、日本のことが大好きという人ばかりで、良い点悪い点含め日本っていいなあと感じます。

留学前に留学の目的も明確にし勉強の計画もたてるとは思いますが、留学開始前と留学中はその目的、考え方も日々変わっていくと思います。目的を見失うということと少し言い過ぎた表現かもしれませんが、日々授業に行き、課題をして、週末にイベントに参加し適当に過ごしていると、留学先では日本よりも自由な時間は多くなると思いますが、時間もすぐに過ぎ去ってしまい、なぜ自分は日本を離れ留学をしているのか、と空虚な状態になってしまいます。常に目的をもって（忘れずに）限られた留学生活（日本での学校生活もそうですが。）を充実させるために目的の再確認や達成したいことなどをきちんと再確認すること、そして自分できちんとタイムマネジメントすることが必要だなあと感じました。日記でも写真でもブログでもどんな形態でもいいのですが、日々の記録をつけることも振り返る際に大事だなあと感じました。

国際地域学部生として、1・2年生で英語を徹底的に勉強し、理系から文系まで幅広い分野の勉強も行なって、留学先でも様々な分野の授業を履修し学んでいます。英語がある程度でき、リベラルアーツ的で広くな

んでも学べてしまう学部だからこそ悩むことも多いと思います。専門を徹底的に研究している学生と比べたら知識は劣ってしまうし、しかしいろんな側面から物事にアプローチできるのは良い面だと思いますが、「専門は何？」と聞かれると明確な答えはきっぱり言えないなあと感じます。「英語（言語）はツールでしかない」というのはとても強く感じます。追われる環境から離れて気づけた本音に向き合い、この地でしかできないこと、したいこと、好きなことを思う存分やって留学生生活を終わられたらなあと思います。

10月の報告は以上になります。11月中旬にはマカオグランプリもあるので街中でも準備が始まっていました。

